



# 北 陸 管 内 の 経 済 情 報

(全国財務局長会議資料)

I. 最近の北陸財務局管内の経済情勢


II. 地域におけるAI活用を巡る現状

令和8年1月29日







北 陸 財 務 局

【お問合せ先】  
財務省 北陸財務局 経済調査課  
TEL (076) 292-7858

# I. 最近の北陸財務局管内の経済情勢

	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>		個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、化学が回復しているほか、電子部品・デバイスが緩やかに持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

〔先行き〕雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	7年度は増加見込み	7年度は増加見込み	
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」超となっている	

## Ⅱ．地域におけるA I 活用を巡る現状

### 1. 調査の概要

地域におけるA I 活用を巡る現状を把握するため、北陸財務局管内の企業等に調査（ヒアリング）を実施。

- （1）調査期間：2025年12月上旬～2026年1月上旬
- （2）調査対象：北陸財務局管内の経済情勢報告を取りまとめる際に従来から継続的にヒアリングを実施している企業等（計101社）
- （3）調査方法：北陸財務局においてヒアリング調査を行い、回答を分類。

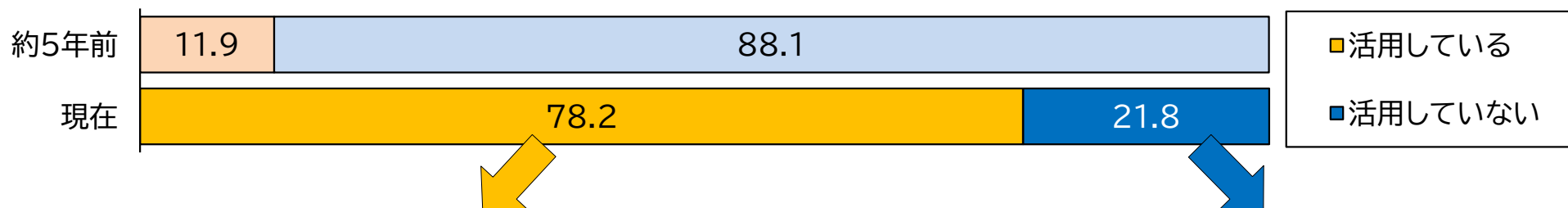
### 2. 注意事項

- （1）結果数値（％）は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。
- （2）北陸財務局がヒアリングを行った企業についての調査結果であるため、管内企業全体の取組を網羅した調査結果ではない。

## II. 地域におけるAI活用を巡る現状

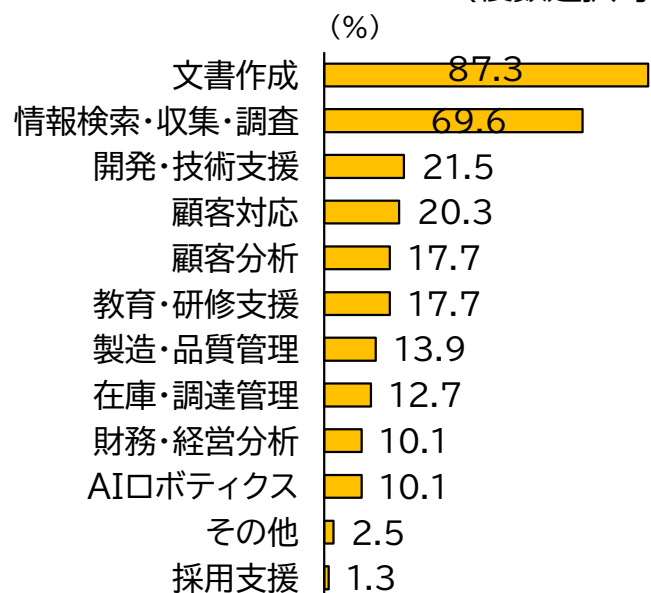
- 約5年前と現在を比較すると、活用している企業は1割強から8割弱まで増加している。
- 現在AIを活用している企業において、活用用途としては、「文書作成」と回答した企業が最も多く、次いで「情報検索・収集・調査」となっている。活用効果としては、「業務時間の削減」と回答した企業が最も多く、次いで「コスト削減」、「必要人員の減少」となっている。
- 現在AIを活用していない企業は、活用していない理由として、「人材・スキル・体制不足」、「各種リスクへの不安」と回答した企業が最も多くなっている。

### AIの活用状況



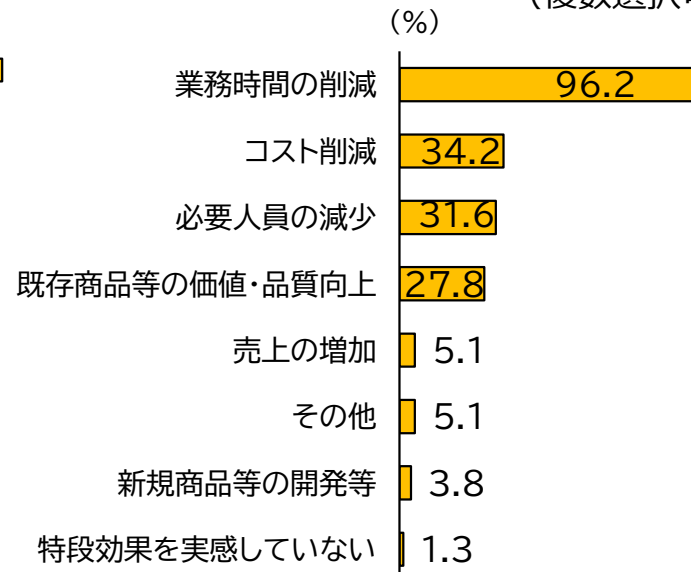
### 活用用途

(複数選択可)



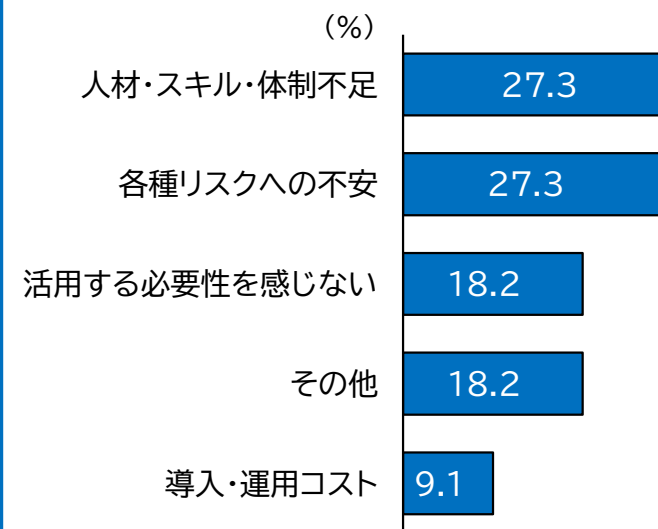
### 活用効果

(複数選択可)



### 活用していない理由

(1つだけ選択)



- 保管部品の所在検索や品質外観検査に活用。人手が不要で、引継ぎ手間も省略。【情報通信機】
- 製造工程をモニタリングして設備の異常を予見。適時の修繕が可能に。【プラスチック】
- 商品の自動発注、見切りについて過去情報などを学習。店舗間格差の平準化に活用。【小売】

- 専門人材の確保ができれば製造管理などに活用したい。【化学】
- 対面対応を重視。顧客分析もセキュリティリスクから現状未活用。【小売】

## II. 地域におけるAI活用を巡る現状 ～事例紹介～ (1) 社会課題解決に取り組む地元企業

世界トップの技術で社会課題解決へ

株式会社 **P F U**

(本 社) 石川県かほく市  
(資本金) 150億円  
(業 種) 情報通信機械工業

1960年創業のコンピュータ・システム  
メーカーで、世界トップの業務用イメージ  
スキャナやITインフラサービスを提供。



【全ての画像提供】(株)PFU

### I. 活用状況

- ① **社内AI活用基盤** 議事録作成・スケジュール調整
  - ② **DX支援社内実践** 自動応答、監査支援、マーケット分析etc
- 業務工数削減 **65万**時間/年  
業務効率化 約**30%**
- ➡ **顧客への提案**

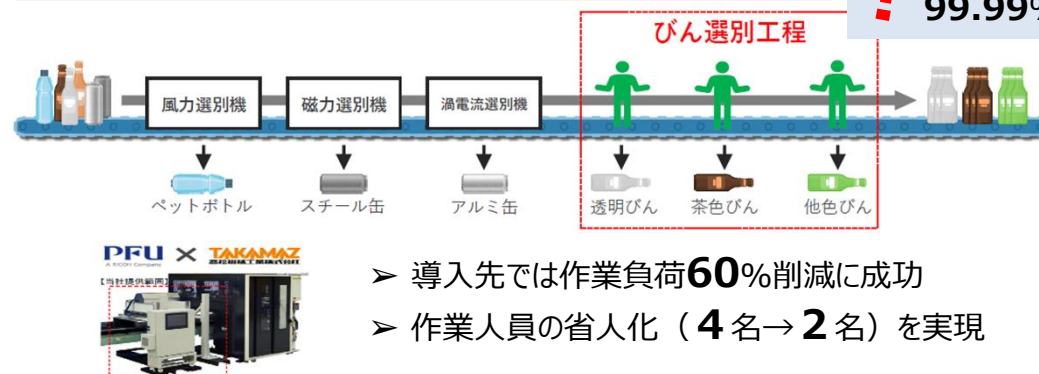
### III. 製品 × AI (廃棄物分別)

**Raptor VISION**

#### ① ビン色別AIエンジン (びん分別の手選別作業を自動化)

光学技術 × 認識技術 + 独自のAIエンジン開発

認識精度  
**99.99%**



### II. 製品 × AI (高精度文字認識) **DynaEye 11**

#### ●活字から手書き文字まで高精度に文字を認識

手書き文字	氏名	住所
	山田太郎	神奈川県横浜市西区みなとみらい
活字	数字	日本語
	12345-6789-01 12345-6789-01	東京都大田区新蒲田1 東京都大田区新蒲田1

#### 公開事例 地元自治体や企業等で導入が進む



**A市役所**  
改善に対する職員の意識を変え「日本一紙の少ない自治体」を目指して  
<https://www.pfu.ricoh.com/fi/digitarakuru/casestudy-0012.html>



**B銀行**  
公金業務のデジタル化により「処理済み通知書の現物を返却しない運用」を日本で初めて実現  
<https://www.pfu.ricoh.com/fi/digitarakuru/casestudy/casestudy-0038.html>

(出典：(株)PFU HP)

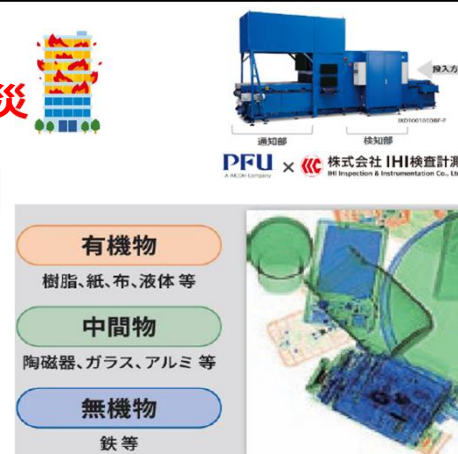
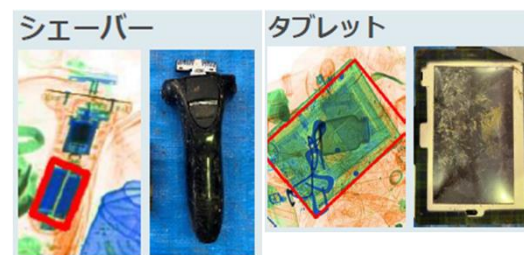
#### ② リチウムイオン電池検知システム

不適切な分別により**年間2万件**以上の火災

X線透過撮影 & 画像認識AI

ごみが重なっていても認識可能

プロジェクトで場所通知・除去



- 実証実験に**自治体**などから**大きな反響**
- 今後各地で導入予定



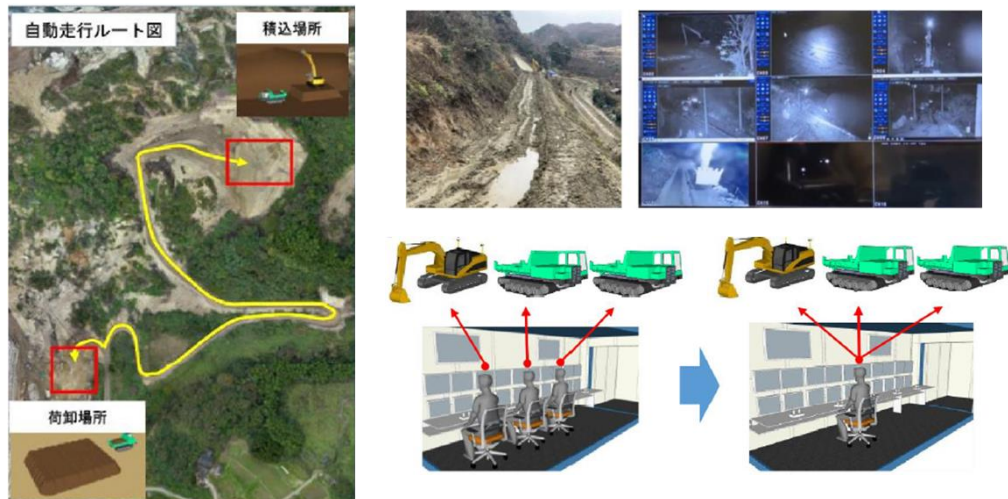
## II. 地域におけるAI活用を巡る現状 ～事例紹介～ (2) 復旧・復興に取り組む能登地域におけるAI活用

### I. 復旧・復興工事における活用状況

#### (1) AI制御による自動走行技術

(施工業者：(株)熊谷組)

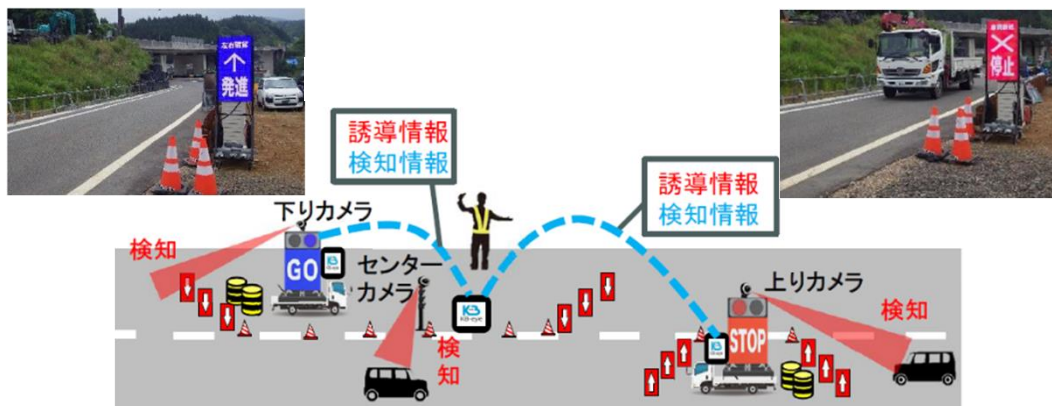
急峻な地形、狭隘な工事用道路、降雨降雪による地盤の軟弱化、夜間作業という厳しい環境において、**AIによる自動走行技術**を導入することで、土砂運搬作業を効率化



#### (2) AI交通誘導システム

(施工業者：鹿島・吉光・能登地域維持型建設協同企業体)

- ・センターカメラにより車両を検知し、**AIが渋滞状況などを把握**
- ・適切な切り替えタイミングでの交通誘導 → 交通誘導員不足解消に貢献



### II. 医療現場を革新



社会医療法人財団董仙会

恵寿総合病院

どうせんかい

(本社) 石川県七尾市 (設立) 1934年  
(病床数) 386床 (職員数) 875名

#### (1) 能登半島地震における対応

免震構造により被害を免れた本館に別病棟の患者110名を避難。発災から10時間での出産や、翌日の手術にも対応。

1月4日には外来診療の受付を開始。自前の業務継続マニュアルにより、わずか10日で業務正常化を実現。

R5年に1人1台導入した業務用iPhoneが、仮設病室での電子カルテの閲覧、チャットによる職員間の緊急連絡ツールとして大きく貢献。

#### (2) DX改革

医療現場の人手不足は深刻。定型業務の効率化も課題。

**経営陣が旗手となりDXを推進した改革に舵を切った。**院内の職種問わず横断的な**開発チームを組織し**、RPAや生成AIの積極的活用を図っている。また、院内のあらゆる**データを可視化**。効果を実感するだけでなく、課題解決策を考えるよう**マインドが変化**している。

##### RPAの導入

- ・現在130体以上が稼働。年間12000時間相当の**業務時間削減に成功**

##### 生成AIの活用

- ・他院への紹介状や看護記録などの**文書作成支援**
- ・**退院時サマリー作成業務は最大1/3に短縮**。年間約540時間の作業時間削減を見込む
- ・**AI問診システム**の導入で、外来診療の効率化

【医師の退院時サマリー作成業務】



#### (3) 今後の展望

- ・**入院患者にスマートウォッチ**を装着し、血圧・心拍等の自動計測を実施する実証実験を実施中。世界初の試み
- ・退院時サマリー自動生成の高度化等を目指し、**電子カルテに直接AI**を組みこんだシステム開発などにも積極的に協力
- ・人手不足解消、業務効率化に向けた必要投資として、今後も生成AI活用をはじめとしたDX推進を強化